

人権コラム7月号

「好き」をみつめてみませんか

北川 知子（大阪教育大学）

「推し活」ということばをよく聞くようになりました。かくいう私も、B T Sの推し活に忙しい一人（RM推しです！）。一方で、最近はすっかりブームのようになり、「推し」がいて当然といわんばかりの取り上げ方や、「推し活」≡消費活動として、経済効果ばかり注目されることに違和感を覚えることも増えました。

「推し活」ということばが流行るずっと前から、ファン、オタク、マニア…と様々な呼び方はあり、人間にとって「好き」という感情は行動のエネルギーにもなる、大切なものなのだろうとも思います。自分自身をふりかえってみても、私が好きなもの、本や映画、アート、作家やアーティストを思いつくまま並べるだけで「私」を説明できるような気がします。みなさんはいかがですか？

人権の視点でこの「推し活」を考えてみたいと思います。まず、人権は「誰にでもあるもの」です。自分が自分であるための精神の自由や、安全で健やかな暮らしの保障など、自分の心身を守るためのさまざまな権利の集合が「Human Rights」（複数形のs付き！）。ですから、自分が不当な扱いを受けていないか、尊厳を削られていないかを考えることも、人権学習の大事な側面です。

自分の人権（尊厳）を守るには、「不当な扱いにNOと言えること」が大切です（これは本人が「言う力」と周りの人たちが「聴く力」の両方で成立します）。まず、「言う力」を身に着けるために、自分がどんなことを嫌だと感じ、不当だと考える人なのか、侵害されたら困る「自分自身の輪郭（境界線）」を知ること。そして「こういうの、私は嫌なんです」と自信をもって言える状態、つまり自分自身の輪郭線（自分と他人との境界線）が明瞭に太い線でしっかり引かれた状態にするために、「推し（好き）」をみつめることが役立ちます。

2018年の9月にB T Sが国連総会の場でスピーチをしたことがありました（<https://www.unicef.or.jp/news/2018/0160.html>）。そこでリーダーのRMは、まず自分のストーリーを語り、聴衆に「自分自身のことを話そう」と呼びかけました。「あなたの名前は何ですか？ 何にワクワクして、何に心が高鳴るのか、あなたのストーリーを聴かせてください」…話をじっくり聴くことは相手を尊重していると示すことでもあります。お互いに「好き」を語り合う、聴きあうことから、お互いを大切にしあう関係性を育てていく。そんな「推し活」が広まるといいなと思います。